

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
有小3あい「学び合い・働き合い・支え合い」	①基本的な生活・学習習慣を身につけ、豊かに学んでいこうとする子どもの育成を図る。 ②命を大切にし、進んで働き、たくましく生きていこうとする子どもの育成を図る。 ③自他の良さを認め、相手を思いやり、仲よく協力していこうとする子どもの育成を図る。 ④地域とともにつくる特色ある学校を目指す。

達成度 A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①基本的な生活・学習習慣を身につけ、豊かに学んでいこうとする子どもの育成を図る。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・基礎学力の定着 ・指導方法の改善	・CRTテスト(国語、算数)の全領域において全国平均を超える。	・朝読書や国語・算数のスキルタイムを確実に実施したり、全児童に音読集を持たせ、暗唱に取り組ませたりする。 ・国や県の学習状況調査を分析し、教師の指導力向上のための支援や本校の課題に応じた学力向上対策の計画立案、実行を継続的に行う。	B	・CRTテスト平均得点率では、5つの学年で全国比100を超えることができた。特に国語科「読む」の領域に関してはほとんどの学年が全国比100を越え、二つの学年で120を越えている。校内研究の成果の一端が表れている。 ・多くの授業で、学習活動の中に対話的な活動を取り入れた学習がなされてきた。	・CRTテストで全国比を下回った学級への少人数授業等の学習スタイルの変更を取り入れ、きめ細やかな指導の充実を図る。 ・さらに主体的・対話的で深い学びを目指す授業の充実を図る。
	○読書の推進	・読書習慣の確立	・読書指導の量的質的充実を図り、図書の一人大当たりの年間平均貸出数が85冊を超えるようにする。	・学年別に図書貸し出し数の目標を設定し、各学年の実態に合った必読書を紹介し、読書の量と質を高める。	B	・全体の図書貸し出し数は目標を越えたが、日常的に読書に親しむ児童とそうでない児童に大きく差が見られる。	・学年別の目標設定が児童に十分伝わっていないかった。まずは多読を奨励し、適切に評価できるような取り組みを行う。
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・ICTを活用した効果的な指導方法の追求	・校内でICT研修会を開き、活用方法の周知と技術向上を図る。	・ICT利活用の研修会を年2回以上実施する。(ICT支援員を活用し、担当者も研修会を行う。)	B	・国語、算数については、ほぼすべての授業でデジタル教科書を使つての学習ができています。 ・「ICTを活用し学力向上に努めた」の回答に75%の職員ができたと答えている。 ・今年度は校務活用のためのICT利活用の研修会を実施した。	・タブレット端末の導入を視野に、職員のICT利活用のための研修を推進する。 ・先進校の事例を参考に実践を行う。
学校運営	○教職員の資質の向上	・授業研究の推進	・全職員が、G研・事前研修を実施し、より深まった指導案で授業公開(研究授業)ができるようにする。	・学び合いの場の充実を図る研究を深め、講師による指導助言を受けながら、より良い授業のあり方を研修する。	A	・全職員がG研や事前の研修会で指導案を検討していくスタイルが定着している。	・今年度までの校内研究をもとに、さらに小中連携をいかして学力向上のためにできることを探っていく。
②命を大切にし、進んで働き、たくましく生きていこうとする子どもの育成を図る。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・朝食をとって登校する児童の割合を90%以上にする。	・保健便りやアンケートを通して、朝食をとることの意義の理解と啓発を行うとともに、おにぎり持参給食の日を年2回設ける。	A	・保護者アンケート「きちんと朝ご飯を食べて登校している」の回答が96.9%であった。	・おにぎり給食のほかに手作り弁当持参給食の実施や食育講演会の実施によって、食の自立を意識した継続的な啓発活動を行う。
学校運営	○危機管理体制の整備	・安全管理、安全指導の徹底	・「危機意識を持ち、児童の事故防止、安全確保について具体的に指導した」と回答する職員が85%以上にする。 ・児童の危機意識を高める。	・外部講師による服務及び危機管理研修会を実施する。 ・年3回の避難訓練、交通教室を実施する。 ・通学路の点検、防犯ふれあい隊との連携等により、交通事故や不審者による被害を防ぐ。	A	・すべての職員が安全管理・安全指導について具体的に指導できたと回答している。 ・外部講師による研修会、避難訓練・交通教室については、計画的に実施できた。 ・町教委等の関係機関との連携により、通学路の安全点検を行い、改善が必要な箇所の見直しができた。	・これまでの実践をもとに、新校舎の機能をいかした取り組みや、地域との連携を充実させた安全への取組を行う。
③自他の良さを認め、相手を思いやり、仲よく協力していこうとする子どもの育成を図る。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・人権意識の高揚	・友達の良さや自分の良さを実感できる児童の割合を90%以上にする。	・道徳の授業の充実(ふれあい道徳などの公開授業)やふれあい活動(縦割り班活動)の中で、思いやりの心や感謝の気持ちを育てる。 ・一人一人の良さを認め、褒めて伸ばすことを心がけ、指導が必要なときは速やかに対応する。	A	・「友達を大事にして仲良く過ごせた」と回答した児童が、94.2%であった。 ・ふれあいタイムが計画的に実施できた。	・縦割り班での活動をさらに充実させ、異学年での関わりを多くする。
	●いじめの問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた職員・保護者・地域の体制づくり	・情報のネットワークを広く保ち、いじめ事案等の早期発見に努める。 ・児童が心配や悩みをいつでも気軽に相談できる体制を整備する。	・毎週1回「子どもを知る会」を開き、気になる児童の情報交換を行う。 ・Q-Uテストや毎週の「元気カード」、毎月の「あのねカード」の結果をもとに、養護教諭と協力・相談しながら、必要に応じて個人面談を行い、一人一人の児童と担任等との対話を積極的に行う。	B	・「子どもを知る会」では、気にしたい児童について率直に情報交換ができた。 ・Q-Uテストの結果をもとに講師を招いて研修を行うことができた。 ・「困ったことがあったときには、友だちや先生に相談している」と回答した児童が73.8%にとどまった。	・年2回設定しているロングの「子どもを知る会」を充実させ、情報交換にとどまらず支援のあり方について検討していく。 ・全校児童が集まる場で、SCや養護教諭や担任が相談の窓口であることを知らせ、児童の不安に適切に対応できるような体制を作る。 ・教育相談週間を設定する。
	○特別支援教育の充実	・支援を必要とする児童への支援体制の充実	・校内支援委員会(ケース会議)により、支援体制の充実が図られたとする教職員が90%以上にする。	・特別支援教育に関わる研修会を年3回以上設定し、専門的知識を深め、適切な対応ができるようにする。 ・校内支援委員会を必要に応じて身軽に開催できるようにする。	B	・ケース会議での協議事項を職員全体に伝えて共通理解を図ることで、特別支援に関わる研修会とした。また、発達障害の当事者の講演を開催することで有意義な研修となった。 ・「校内支援委員会や子どもを知る会で、気にしたい児童について共通理解を図られた」とする職員は、100%だった。	・今年度のように関係機関と連携をとりながら包括的な支援を継続させる。 ・児童の支援が後手にならないように共通理解を図っていく。
	○生活指導の充実	・生活管理と安全教育の推進	・あいさつ、廊下の安全な歩行、無言掃除などができた、という児童が85%以上にする。	・「有田っ子ブライド」(月目標)を職員間に共通理解を図り、指導を徹底する。 ・職員があいさつ運動(毎月1日・20日)を実施する。	B	・「気持ちの良い挨拶ができた」と回答した児童は90.3%、「廊下や階段を静かに歩いた」と回答した児童は77.7%にとどまった。	・あいさつはコミュニティ・スクールの機能を生かし地域ぐるみで取り組んでいくようにする。 ・校内での生活指導は、職員が共通理解のもと、生活指導主任を中心に根気強く指導を続けていく。
④地域と共に歩む特色ある学校を作る。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○地域に学ぶ教育の推進	・地域の教育材(人・物・事)を活用した教育活動の推進	・地域の人材を活用した教育活動や地域学習を1学級1学期に1回以上実施する。	・各教科等で地域の教育材を活用した学習を展開し、体験活動を重視した学習を仕組む。	A	・地域人材との連携もとれており、児童の体験活動に十分生かすことができた。	・現在の教育計画を生かし、担任が無理なく取り組める年間計画を作成し活用できるようにする。 ・有田を知る活動(物・事)のさらなる充実を図る。
学校運営	○情報発信	・PTA、保護者、地域との相互理解と連携の推進	・学校、学級の生活や様子について子どもと話し合う保護者が90%以上にする。	・学校HPや「はなまる連絡帳」、学校だよりや学級だよりの充実を図る。	A	・「学校学級の生活について、子どもとよく話をしている保護者」の割合が94.8%だった。 ・学校HPの更新及び学校便り等の発行は定期的にできた。	・情報発信の更新日を設定し、定期的に新しい情報を発信する。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり(一人当たり)45時間とする。	・サーバー内の情報を共有化し、業務の均一化を図る。 ・定時退勤日(水曜17:30)を明示するとともに、他校の取組等を提示し、意識の向上を図る。	A	・教職員の時間外勤務時間は45時間を下回った。 ・定時退勤日の推進もほぼできている。	・一部の職員に校務分掌の負担が来ないよう、年度当初に担当を確認し、途中見直しを行う。
4 本年度のまとめ・次年度の取組							
・今年度、校長のリーダーシップのもと「チーム有田」として全職員が一丸となって学校目標の実現のため全力で取り組んだ。保護者、PTA、地域との連携も良好であった。 ・「子どもを知る会」を毎週水曜日に実施し、「気になる子」についての情報共有・共通理解を全職員で図り、関わり方等について協議し実行していった。今年度は特に、保健室(養護教諭)や職員室(級外職員)からの子どもたちの情報が参考になった。担任だけでなく、いろいろな場面での子どもたちの様子を見て、指導していくことができたことが、問題行動や不登校(保健室登校)や重大ないじめの事案が起きなかった要因と思われる。 ・学校が改築され1年目であり、いろいろなことを職員で協議しながら最善の方法を考えていくことができた。 ・来年度は、コミュニティ・スクールをさらに充実させ、明るく温かい職場の雰囲気を保ちながら、一つ一つの課題に全職員が力を合わせて取り組み、全ての子どもたちが楽しく充実した学校生活を過ごせるような伝統ある「有田小学校」を目指していきたい。							

●は共通評価項目、○は独自評価項目